

白山ののいち医師会報

2024年
No.17

発行日 2024年4月1日
発行 白山ののいち医師会
〒924-0865 白山市倉光7-122
TEL 076-275-0795 FAX 076-276-8205

巻頭挨拶

副会長 古澤明彦



虫たちが一斉に顔を出し、花咲き始める啓蟄の候に本稿を書いています。スポーツの世界では開幕の合図が鳴り始めました。希望に満ちた入学(社)式も訪れます。まもなく新幹線が敦賀まで

延伸します。地方会がいい例ですが、北陸3県は地理的にコンパクトにまとまった地域。金沢から20分前後でお隣の県都に行けるメリットは大です。これが最後と思い先日サンダーバードに乗車しました。ラストランに近いせいでしょうか、ホームや沿線には多くの撮り鉄が活躍していました。

地震から2か月経ちました。初動の遅れ、インフラ復旧の遅れなど半島の特性と絡めて色々論じられています。問題山積ですが、一方で全国からの励ましや義援金、自衛隊、DMAT、JMATなど官民あげての支援は過去最大級と聞きます。視線の先に日本の将来を見ているのかも知れません。

感染リスクや重症者の減少、恐怖心の薄れなど背景に、昨年5月コロナは5類に移行しました。風化傾向と共に気になる点が少々。感染対策としてマスクや手洗いが強調され実行されました。しかし波状攻撃は底辺も高さも増すばかり。多様な感染経路は当初から指摘されていたこと。一斉休校や緊急事態宣言の繰り返しなど3密策への固執はZOOMや在宅勤務を進化させましたが、一方で教育や社会活動、経済に少なからぬ打撃を与えました。Pandemicはいずれ再来すると身構えてはいますが、はたして同じ対応を取るのでしょうか。慎重さや潔癖さは日本の

国民性とはいえ、必要(適応)以上にマスクを愛好する人が増えました。今後まちなかや診療現場にマスクfreeな風景が戻る日が来るのでしょうか。ワクチンは回を重ねても新規感染が続出。今後の定期接種の貢献度が気になります。後遺症は症状や頻度、疾患特異性、機序など詳細は不明のまま。経口薬はその評価に意見が分かれます。モヤモヤは残ります。

年末世相表す漢字が話題です。裏の定番は低～小・少でしょうか。人口減、少子、円安、GDP減、競争力低下…。低あれば物価や人件費、株価など“高”もあります。医師会では組織率低迷が問題です。医療は以前にもまして地域との繋がりがなく成り立たない時代。大学や勤務医として活躍の先生方。sustainableな第2の人生も考えているなら地域への関心関与は早めがいい。我々も医師会活動への参加が有意義となるような受け皿を考えなければなりません。「日医は所詮…」と斜に構える先生もおられます。考え方は自由ですが沈黙は何も生みません。診療報酬引き下げは周り回って過疎地や地方を衰退させるという主張に同意します。三位一体改革やSDGsに微増ではダメです。増しかありません。財政優先の国や経済界の論理は多少強引ですが、説得力もあります。対抗には発言力が必要です。発言力には数が必要です。

昨年度も当医師会では新規開業が相次ぎました。会員数は増えてきましたが、お顔や人となりなど詳細不明な先生方が少なからずおられます。医師会行事への出席率低迷も問題です。ご参加の程よろしくお願い申し上げます。

白山ののいち医師会定時総会（令和5年6月10日）

令和5年度の定時総会が6月10日グランドホテル白山で行われました。

白山ののいち医師会員の過半数（130名）の参加者及び委任状により総会が成立しました。

松葉会長の開会挨拶後、議長に下崎 英二先生が選出され、議事録署名員に嶋 裕一先生、筑田 正史先生が任命されました。

第1・2号議案として、令和4年度事業報告と収支決算報告及び会計監査報告が執行部より一括提案され、全会一致で承認されました。また、令和5年度事業計画（案）及び収支予算書（案）が執行部より一括提案され、全会一致で承認されました。

（古澤 明彦）

会 長	松葉 明	
副会長	真田 陽	古澤 明彦
理 事	生駒 友美	加納 昭彦
	真田 宏人	高澤 和也
	谷 卓	津山 博
	寺島 成明	富田富士夫
	長尾 信	長野 賢一
	橋本 憲三	堀川 勲
	武藤 一彦	柳 昌幸
	山川 治	山本 信孝
監 事	吉光 康平	河合 博



受賞のあいさつ

石川県医療功労者知事表彰受賞のご挨拶

てらしま内科クリニック 寺島 成明

このたび、医療功労者知事表彰を受賞させていただきましたことに心より感謝申し上げます。この表彰は、白山ののいち医師会の皆様のご推挙とご支援の賜物であると深く感じております。

私は石川県立中央病院循環器内科の勤務医として救急医療の最前線から1999年に白山市で開業いたしました。カテーテル治療に携わる24時間オンコールの循環器内科医から、内科かかりつけ開業医へと勤務形態や日常生活が大きく変化しましたが、日常診療では患者様の健康と安全を第一に考え、時には判断に苦慮することもありながら少しでも患者様によりそのような診療を目指す点では変わりはないと思っております。

しかしながら、個人開業医では新たな医療制度変更に伴う政策・施策などでの見落としや理解できな

いことが多くありました。そのような時に、現白山市医師会長の真田陽先生からお誘いをいただき白山ののいち医師会の理事に加えていただくことになりました。医師会理事会に出席してその業務の広範にわたる事や困難さを知るに及び、医師会活動の一端ではありますが理解するとともに種々の不安も解消されたように感じます。

10年間の理事活動を振り返って何かが出来たという実感はありませんが、地域医療に少しでも貢献できたのであれば幸いです。

最後になりますが、再度、白山ののいち医師会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。この表彰は私にとって励みとなり、今後も医療現場で貢献できるよう努めてまいります。今後ともより一層のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

石川県健康増進事業推進知事表彰

しおのやクリニック 塩谷 隆策

春先の頃、白山ののいち医師会会員様におかれましては健やかに過ごしの事と存じます

さて、私事ではありますが、2023年10月19日石川県庁にて2023年度健康増進事業推進知事表彰を受賞させて頂きました。

これも一重に白山ののいち医師会様及び医師会会員皆様のお陰と感謝しております。

小生のクリニックは白山市でも西のはずれで、手取川と能美市と日本海に囲まれた湊町にあり、父親から引き継ぎ今年で23年経ちました。

私のクリニックの前身は昭和34年に父親が現クリニックと同じ場所で初代湊診療所所長として赴任し、途中、開業を経て40年余りこの地で外来、往診、学校医、産業医と保健医療行政等に従事しました。

その地盤がありましたので、私への引き継ぎもスムーズでした。

私も外来、デイ・ケアセンター開設、訪問診察、学校医、産業医と今までやってこれた事がこの賞につながる事になったと思っております。

最初は訪問診察だけでなんとかかなると考えやっておりましたが、機能が衰えた高齢者にはリハビリ、栄養、看護、身の回りのお世話と沢山の事が必要となる事がわかりました。病院勤めの頃は患者さんの病状の変化ばかり気にしており患者さんの全体はみておらず、病状以外の大事な事は病院任せになっていたと思います。

湊地区も高齢化が進んでおり、少しでも寝たきり患者さんが減ればと考え、8年程前にクリニック隣にデイケアセンターを開設しました。開業してからはケアマネージャーを始め医療職、介護職の連携が

必要で、病院と違い自分で全てしなければいけないことが多いですが、その分やりがいがあり、患者さんの笑顔に元気を頂いております。

ところで湊町には保育園と小学校とあり、父親がやっている時と合わせて50年以上、園医、学校医をやらせて頂いており、自分の卒業した保育園、小学校のお手伝いできるのは光栄な事であります。

しかし保育園、小学校では、少子化が進んでおり検診時間も私が開業した頃と比べ、今では半分の時間で終わってしまいます。これ以上生徒が減れば統合や廃校の可能性も有り大変危惧しております。そして私が力をいれてきたのは産業医の仕事です。

今は複数の会社の産業医をさせて頂いております。

会社によって業種が異なる為、ポイントの置く場所も違いますが、基本業務は検診と工場巡視です。しかし最近健康教育、長時間労働、ストレスチェック、メンタルヘルスの相談、復職の面談、安全衛生委員会の参加などかなり仕事量も多く、しかも勉強しなければならない事が多いと思います。

法律では従業員50人から500人までは産業医の常勤は必要無しとなっていますが、多忙である為、非常勤の契約の時間では足りないと感じる事が良くあります。特にメンタルヘルス、職場復帰の相談が増えているように感じます。

私が開業しておこなっている事を書かせてもらいましたが、この賞を頂いたことでこの地区の保険医療と介護事業を今後も頑張りたいと自覚ができました。それでは今後の会員様の健康とご多幸を願い健康増進事業推進知事表彰の謝辞とさせて頂きます

石川県公衆衛生功労者の母子保健事業従事者県知事表彰を受賞されて

公立松任石川中央病院

産婦人科 砂崎 紀子

はじめに、このたびの能登半島地震で、犠牲となられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。また、被害に遭われた方々の息災安穩、被災地域の復興を祈らせて頂きます。

昨年、思いがけず、公衆衛生功労者の母子保健事業従事者県知事表彰を頂きました。現在は、決して多くの分娩数を扱っている訳ではありませんが、これまで、本当に多くの方に支えられてのことであり、代表として頂きました。心より感謝申し上げます。

私が研修医になったころは、骨盤位の経膣分娩が行われており、指導医から、産婦人科医の全てをかけて、ご指導して頂きました。また、そのころの指導医から、何かあったら看護師と帝王切開ができないといけない、と厳しくもあたたかく育てていただきました。

金沢大学附属病院勤務の時、能登に、月に1回程度、週末の日当直に行かせて頂きました。片道2時間かかりましたが、激務の大学病院を離れ、楽しみでもありました。能登では、分娩がないときはドライブもしましたが、特に禄剛埼灯台は、朝日と夕日が見られる、すばらしいところでした。その駐車場からの途中の坂道のわきの畑には、丁寧に野菜が育てられており、能登はやさしや土までも、という言葉思い出しました。

ある日、能登での日当直中に、陣痛で入院している方の胎児心拍が下がっている、と連絡が入りました。帝王切開が必要と判断し、不安そうな妊婦さんとご主人に病状を説明し、帝王切開の準備が始まりました。私は、再度心拍が低下したらこの能登でどうしたらよいか、と妊婦さんから離れる事ができず、手術の準備が整うまで、必死に祈りながらそばにいました。ようやく手術を始めることになったのですが、手がふるえて腰椎麻酔の針が入りませんでした。その病院では、緊急手術は当直している外科医と行う事になっており、待機していただいている外科の先生に腰椎麻酔を入れていただきました。また、その先生は帝王切開術の助手も慣れていたので、なんとか無事に帝王切開を行う事ができました。今思い出しても、手がふるえます。

奥能登では、簡単に金沢に母体搬送することもできず、一人医長で長年産婦人科医療を守ってこられた先生方は、本当に立派だと思います。

授賞式では、馳知事から、石川県の産科医療を支えてほしい、とのお言葉がありました。これからも地域の周産期医療に貢献できるように、精進させていただきます。先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

外来感染対策向上加算合同カンファレンス

第一回 令和5年7月27日(木) 第二回 令和5年12月1日(金) 公立松任石川中央病院

外来感染対策向上加算合同カンファレンスが、公立松任石川中央病院にて2023/7/27(木)、12/1(金)にWeb形式・現地参加形式にて行われました。第一回は石川中央地区における新型コロナウイルス感染症の約3年間におよんだ発生状況・対策をご教示いただきました。第二回は新興・再興感染症についてのカンファレンスでした。当地区でのインフルエンザA/B・コロナウイルスの感染状況について提示していただいたのち、麻疹について以下の内容のご講演をいただきました。

1. 5類感染症であり、直ちに届出が必要である。
2. 空気・飛沫・接触感染であり、予防的には麻疹ワクチン・MRワクチンが有用である。3. 1回罹患すると終生免疫がある。4. 1977年以前に生まれた方はワクチンを打っていないことが多いが、既感染者も多い。5. ワクチン接種歴を母子手帳で可能なことが多い。6. 2007年に若者を中心に大きな流行があった。

以後は海外からの輸入例が多い。

医療従事者の対応については以下のご教示いただきました。1. 対応しても大丈夫か判断する。2. 全職員の麻疹抗体価を確認し、低値・陰性であればMRワクチン接種を勧奨する。3. 医療従事者はウイルスに暴露する可能性が高いことを認識する。4. 海外渡航歴が非常に大切である。5. 平時より有事に備える。

その後行われた感染症対策訓練では個人防護具N95マスクの使い方についてユーザーシールチェックを含めご教示いただきました。

最後に石川中央保健所所長 木曾 啓介先生から、地域の感染対策の観点から今後も継続してこのような場を設ける必要があるとお話をいただき、会は終了いたしました。

(津山 博)



白山市の在宅医療介護連携を考える会

令和5年8月19日(土) 白山市文化会館ピーノ

白山石川医療企業団 横山 邦彦

アルツハイマー病の根本治療薬（疾患修飾薬）であるレカネマブが米国に続き国内でも2023年9月25日に薬事承認され、同年12月20日に薬価基準収載、発売となり大きな注目を浴びている。厚生労働省では、2012年の我が国の認知症患者数約462万人が10年間で1.5倍増加し、2025年には700万人を超えると推計している。認知症は「年齢」が最大の危険因子である。23の疫学研究を基にしたメタ分析では、年齢とともにアルツハイマー型の発症が急激に上昇すると示された。また、the Bronx Aging Studyからは、認知症の発症率が85歳まではゆっくり上昇し、85歳を越えると急激に上昇する。我が国の高齢化に伴い、認知症の増加は不可避と言える。

したがって、「認知症の発症を遅らせる」二次予防が重要となる。認知症が高齢者の病であるが故に、認知症の手前で天寿を全うするまでなんとか認知機能を維持するという出口戦略が有効と考えられるからである。ここでMCI（軽度認知障害）に着目したい。MCIは認知症ではなく、正常加齢と認知症の中間状態（予備軍）で、もの忘れは軽微で日常生活が自立している。放置すれば年率10%～30%が認知症に移行し、適切に生活介入すれば年間16%～43%が正常レベルに回復すると報告されている。MCIから認知症への発症を5年遅らせれば、我が国の患者数は半分になるとの推計もある。

そこでMCIを拾い上げ、生活介入をすべく、白山市のプロジェクトとして2022年度から新たな取り組みが始まった。何故ならMCIは自覚症状に乏しいため、医療機関を受診する機会はほとんどないため。65歳以上の白山市の市民に対し広報を通じた呼びかけに対して、8月までに300名を超える希望者が本事業に参加申込をした。9月より、希望者を対象に「あたまの健康チェック®」で認知機能を、体力測定で運動機能を評価した上で、運動教室と食事指導を実施している。スポーツ庁の補助金も活用し、小さく始めて出口を広げる展開を考えており、「あたまの健康チェック®」実施サイトを徐々に増やし、毎年結果を出していく方向で23年も事業は進行中である。本プロジェクト実施までの後押し並びにプロジェクト推進には、松葉会長を始め白山ののいち医師会の先生方のひとかたならぬご支援を賜り、書中ながら深謝したい。



令和5年度救急フェア

令和5年9月9日(土) イオンモール白山

9月9日 救急の日に、当医師会と白山野々市広域消防署との共催で恒例の救急フェアが、白山市イオンモールで行われました。コロナ禍で暫く休止していましたが、今年は4年ぶりの開催となりました。会場には、心肺蘇生術やAEDの使用法の体験、血圧測定、骨密度測定、そして金沢脳神経外科病院

長山本信孝先生による脳卒中の健康相談のコーナー等、500名以上の多数の参加者があり、大変盛況の中終了し、市民の方の救急処置の関心の高さが伺われました。

(会長 松葉 明)



第19回病診連携研修会**公立つるぎ病院におけるACP支援の取り組み**

令和5年10月7日(土) 金沢国際ホテル

公立つるぎ病院 地域包括ケア病棟
看護師長 星野 真紀

当院は、白山市・野々市市・川北町を構成団体とし、公立松任石川中央病院とともに白山医療企業団に属す病床数152床のケアミックス型の在宅療養支援病院・へき地医療拠点病院です。当院の前年度の入院患者の平均年齢は80.2歳で超高齢化社会を迎える現代において、入院を機に療養環境や生活の再構築を考える場面も少なくありません。人々が何を大切に生きてきたか、これからをどう生きるか、そして最期をどう迎えたいかを考え、他者に伝えていくACPの普及の大切さを感じました。

ACP支援に関わるのは看護師だけではありません。患者の何気なく発した言葉がACPに繋がっていくことを考えると、患者に関わる全ての職種が支援者になってきます。そこで、当院では「多職種で関わるACP支援」を目指し職員への教育・啓発に取りくんできました。まずは、ACPの共通理解・知識の習得を目的に外部講師を招き研修会を開催しました。参加者からは「話合う過程の大切さを理解できた」、「タイミングや声かけの方法が分かった」「ACPの内容の充実が必要」など意見が聞かれました。また、診療録内にACPの記載箇所を設け、患者の意向に関わる情報を時系列で確認できるように

しました。更に、多職種から集まったACP支援に繋がる患者との関わりを「ACP便り」として発行し院内普及に努めています。

ACPの主役が患者や地域住民であることを考えると、病院内だけではなく、地域全体でACPを共通理解し普及に努めていく必要があります。そこで白山ろくサービス連携会議の中で、地域住民と関わる医療従事者やケアマネージャー・生活相談員の方を対象に研修会を行いました。当院の緩和ケアチームが作成したACP支援に関する動画を視聴しグループワークを行い、患者の言葉から各職種がどのような関わりを持てるかを検討して頂きました。更に、10月に開催した当院の健康フェアの中で地域住民に対し、ACPについて説明した後、参加者の皆さんでカードゲーム（もしバナゲーム）を行いました。皆さん、初対面の方々でしたが様々な意見を伝えあい、楽しそうに参加されていました。アンケートからは、「もしもの時を考える良い機会になった」「気づかない潜在的な気持ちに気づかせてくれた」「大切なことだと思った、参加して良かった」など良い意見が沢山聞かれました。

今後も院内でのACP支援の知識・技術の向上を目指すと同時に、患者や地域住民の方々にACPの大切さを伝え、その人らしく生きることを支援していきたいと思っております。



第19回病診連携研修会

歯科のない中核病院における組織連携の取り組みの成果

令和5年10月7日(土) 金沢国際ホテル

白山石川医療企業団 公立つぎ病院
酒井 尚美

当院は在宅療養支援病院、へき地医療拠点病院として、治療を継続しながら住み慣れた自宅や介護施設での在宅復帰を目指した医療の提供に努めています。診療科は20科あり歯科の標榜はありません。

口腔ケアの目的には口の中を清潔にするだけでなく、歯や口の疾患を予防し、口腔の機能を維持することやQOLの向上のみならず、誤嚥性肺炎などの全身疾患の予防や全身の健康状態の維持・向上につながるなどがあります。病院の現場で実施する口腔ケアは、二次疾患の発症予防や回復遅延を防止することにつながり、重要性が増していると感じています。現在の口腔ケアチームが発足し活動に至った背景ですが、高齢化する入院患者層の変化や肺炎・誤嚥性肺炎で入院する患者が全体の約1割を占めており、院内で統一した管理が十分にできていない状況でした。これらの経緯から2019年に口腔ケアチームを発足することとなりましたが、当院には専門医はいないため公立松任石川中央病院の歯科口腔外科医師（以下、歯科医師）と歯科衛生士に協力してもらうことになりました。歯科連携体制を整った頃にちょうどコロナ禍となり、2年間は歯科医師達が行き来を控えなければならない状況でしたが、2022年5月より本格的に稼働し今日に至っています。

メンバーは外科医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、作業療法士、管理栄養士、看護補助者の7職種で構成しています。特に患者のスクリーニングを重要視し情報を共有しながら連携し週1回活動しています。スクリーニングにはOHAT-J (ORAL

HEALTH ASSESSMENT TOOL-J) という誰でも同じように口腔評価できるツールを使用しています。評価は8項目あり、『唇』、『舌』、『歯肉粘膜』、『唾液』、『残存歯』、『義歯』、『口腔清掃』、『歯痛』を観察ポイントとしています。

歯科医師達が介入前後のチーム活動では、介入前(2020年～2021年)は歯に関する問題を抱えている患者は地域の歯科医院の往診を依頼していたため、チームへの介入依頼は少なかったのですが、介入後(2022年)は、歯や口の粘膜のトラブルを抱えた患者の介入依頼数が5倍に増加しニーズの高さを感じました。またOHAT-Jの項目別の評価では、歯科医師達の介入後は簡易な歯科処置が可能となったことにより、『義歯』、『残存歯』、『舌』の3つの項目が改善しました。病室で処置するためできる治療範囲は限られていますが、義歯の調整や動揺歯を抜歯することで形のある食事形態を噛めるようになり、動揺歯の自然脱落による誤飲防止などのトラブルを解消できました。それまで私達コメディカルだけでは、どうにもできずに困っていた問題が解消されるようになったこともチームのやりがいにも繋がりました。

2019年度以降4年間で退院患者が入院中に誤嚥性肺炎と診断された件数の抽出結果より誤嚥性肺炎と診断された患者の割合は平均6.3%と横ばいでしたが、2022年は誤嚥性肺炎で2回以上再入院した患者さんは減少しました。

企業団内で人材を有機的活用した連携体制を構築できたことにより歯を含め、口腔環境の改善に繋がるとなりました。今後も連携しながら活動を継続していきたいと考えます。



令和5年度 石川県医師会との懇談会報告

令和5年10月13日(金) 石川県医師会館 (ハイブリッド形式)

議題

1. 電子処方箋における石川県医師会の取り組みについて (白山ののいち医師会)

内容 電子処方箋を県内に広げていく上で、県医師会としてどのような方針で取り組んでいるのか。

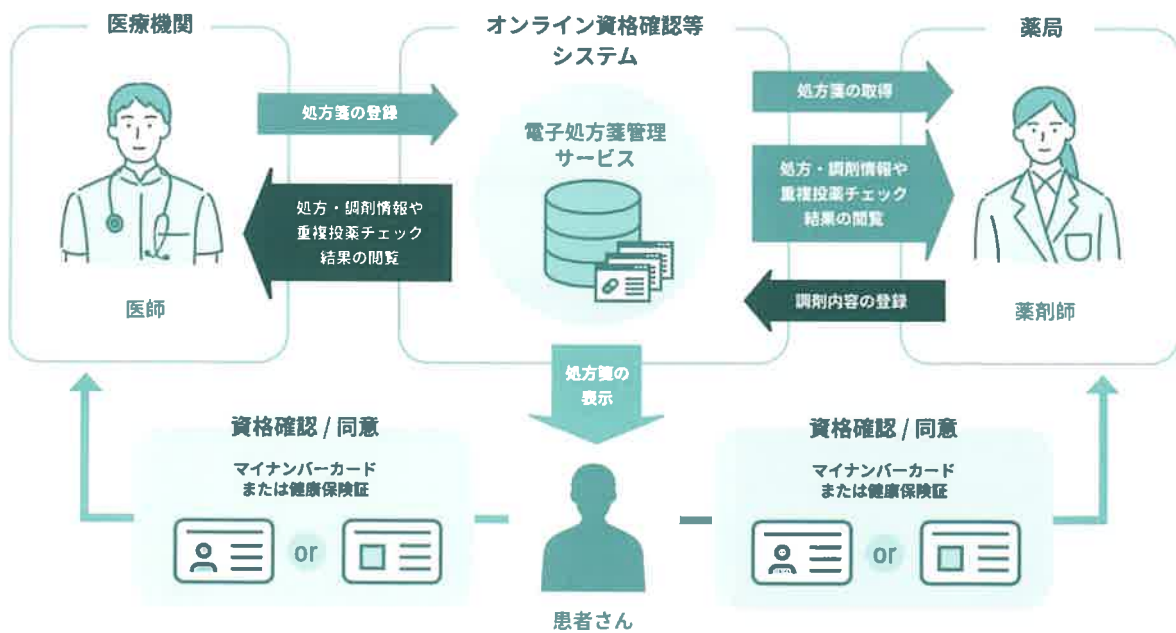
回答 現時点において、県医師会としては会員に電子処方箋の普及推進活動は行っておらず、それぞれの医療機関の判断に委ねているところです。また、今年度厚生労働省のモデル事業地域として公立松任石川中央病院が選ばれており運用状況について確認していきたいと考えています。

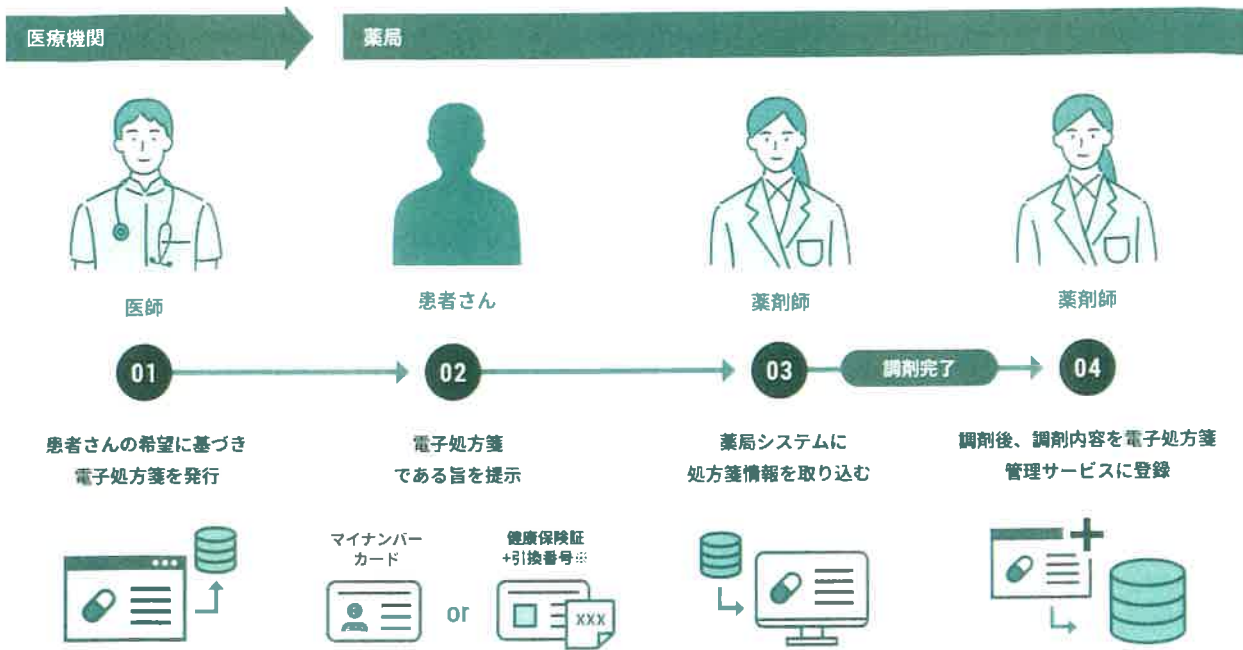
電子処方箋を広げていく上で重要なことは電子処方箋を発行する枚数にとらわれず、調剤

内容を紙・電子処方箋に関わらず電子処方箋管理サーバーに登録することで、重複投薬・併用禁忌が確認に該当するかの確認ができることになることが重要な点です。

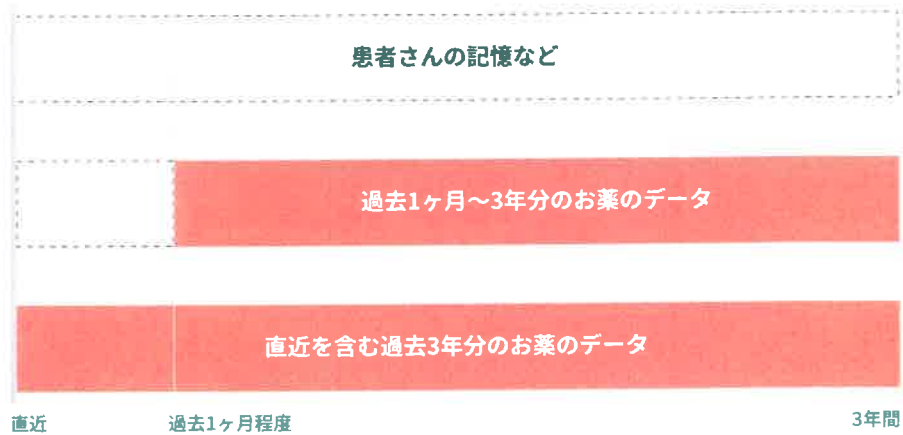
電子処方箋を普及させるためには、各医療機関に勤務する医師の医師資格証・HPKIカードの取得を進めていく必要もありますが、それ以上に調剤薬局の管理薬剤師だけではなく勤務している薬剤師全てが薬剤師資格証・HPKIカードの取得が重要な鍵となります。現時点で参加している薬局の中でも、多数の薬剤師がシフトを組んで勤務しているチェーン薬局においては、管理薬剤師のみ取得しているところがほとんどであり、空白時間が生じてしまい運用に支障をきたしている現状もあります。

(長尾 信)





- ✓ 従来
- ✓ オンライン資格確認導入済み
- ✓ 電子処方箋導入済み



お薬手帳や患者さんとのコミュニケーションのみを基に把握する情報

電子処方箋管理サービスなどに記録されたお薬のデータを基に把握する情報

	マイナンバーカードで受付		健康保険証で受付
	同意あり	同意なし	
薬剤師の業務	重複投薬チェック	○ できる	○ できる
	過去のお薬情報の参照	○ できる	✕ できない
	過去のどのお薬が重複・併用禁忌に該当するかの確認	○ できる	✕ できない

第14回「医療と介護のシンポジウム」を終えて

令和5年10月28日(土) 白山市文化会館ピーノ

このたび令和5年10月28日に第14回「医療と介護のシンポジウム」を白山市文化会館ピーノにて開催いたしました。多くの方にお集まりいただき、久しぶりに医療・介護関係者が直に顔を合わせて、討論に参加することができました。

さて3年以上も続くコロナ禍もCOVID-19の感染症分類5類への移行により新しい段階に入りました。日々苦労の絶えなかったこれまでの3年間ではありましたが、感染拡大防止の観点から移動制限や面会制限をせざるを得なかった医療・介護現場を振り返り、その経験を今後はどう生かしていくか話し合う機会を設けることとしました。

今回はまず基調講演として公立松任石川病院長の高沢和也先生に公立つぎ病院での取り組みとその成果を紹介していただき、その後に白山松任訪問看護ステーション伴いずみ氏、白山市地域包括支援センター大門苑の福田正成氏、金沢南ケアセンターの中井康之氏に、現場でのコロナ対策の経験と苦労を

語っていただきました。

今回のような大規模な感染症の流行は初めての経験であり、厚生労働省はじめ各機関からいろいろな「指針」は示されたものの、やはり現場では「手探り」の状況だったものと思います。感染拡大当初は病院や高齢者施設でのクラスター発生が大々的に報道され、ともすれば患者さんや介護を受ける方、そしてそのご家族にも、行動・面会制限が加えられることが続きました。そういった環境下でも人と人のつながりを大事にした医療・介護を続けていきたいという思いは共通してました。

皆さんのお話を聞いて、有益なものから、いわゆるフェイクまで様々な情報が錯綜する中で、スタッフが“自主性”を持って、考えるための材料を探し、方向性を打ち立て、実践していくことの重要性を教えられました。

(実行委員長 山川 治)



日本医師会認定

白山ののいち医師会産業医研修会

令和5年11月10日(金) グランドホテル白山

- 一. これからの化学物質管理について
今回の安全衛生規則等の改正は、化学物質の自律的な管理を基軸とする規制への移行のため、管理体制の確立として化学物質管理者・保護具着用責任者の選任の義務化、雇入時教育の商業的業種への拡充、職長教育対象業種の拡大、化学物質の危険性有害性に関する情報伝達の強化、特化則等に基づく措置の強化と柔軟化、がん等の遅発性の疾患の把握とデータの長期保存等に関するものである。なお、リスクアセスメント対象物質は、現在の674から、令和8年4月には2,900物質程度まで増加する。
- 二. 改正に伴い産業医に求められる役割や重要度が増すこととなった。具体的には化学物質製造・使用事業場で複数のがん患者が発生した場合、事業者は、医師の意見（罹患が業務に起因するものと疑われると判断）により労働局長に報告を行うことになったが、産業医選任事業場では、産業医が、作業状況、作業環境の状況、リスクアセスメントの実施状況や過去の健康診断結果を踏まえて意見を提出することになると思われる。
- 三. また、がん原性物質について、毎年作業記録（作業によるばく露状況と医師の対応も含む）の作成と30年間の保管が義務付けられた。
- 四. 産業医の職場巡視にあたって、ラベル・絵表示のついたリスクアセスメント対象物質が増加するが、暴露防止対策が適正に行われ、化学物質管理者や保護具着用管理者がその役割を果たしているか等についても確認する必要がある。具体的には、局所排気装置などの設置稼働や皮膚等障害化学物質について適切な保護具が選択・使用されているかなどである。
- 五. リスクアセスメント実施結果に基づく健康診断は、健診項目も含め事業場（産業医）の対応が新たに求められ、濃度基準物質について基準値を超えて暴露した場合の健康診断についても産業医が対応を求められる場合が出てくるものと思われる。
- 六. 衛生委員会においても、産業医が化学物質管理に関し、意見を求められる機会が増加するものと思われる。
- 七. 有機溶剤健診や特化則健診等の特殊健康診断実施頻度の緩和として過去3回の作業環境測定結果が管理1で、健康診断実施結果において所見がなく、工程も変わっていない場合には、事業者の判断で6か月に1回から1年に1回に緩和できるが、安全配慮義務の観点から省略について産業医の意見が求められる場合が予想される。

(加納 昭彦)

化学物質管理（産業医の役割）

独立行政法人 労働者健康安全機構

石川産業保健総合支援センター 労働衛生専門職 越川 昌明

①化学物質管理者の選任義務

化学物質の管理が国の管理から企業の自律的な管理へ変わります。

令和6年4月1日

「労働安全衛生法施行規則等の改正」

背景 健康被害を被る可能性のある化学物質の著しい増加 約3000物質にも！

国が管理していた化学物質以外からの健康被害が多くなっている。

そこで企業は 危険な物質 SDS(*)対象物質 を扱っているか知る必要があります。

(*)SDS (Safety Data Sheet) には危険性、有害性、取り扱い、応急処置などが記載され受診時有用です。

1. 厚労省「職場のあんぜんサイト」の対象物質検索サイトで調べることができます。



2. SDS対象物質には「危険」か「警告」、万国共通の絵文字(**)がラベル表示されています。

(**)安全に取り扱うための重要情報が分かりやすく表示 全9種類 GHSラベルと言います。

産業医としては健康有害物質「金属腐食性他」「眼刺激性他」「発がん性他」「急性毒性」、ラベルを知っておく必要あり

「危険」は「警告」より危険有害性が高く注意！



このような絵文字があれば注意すべき化学物質となります。

★そのために化学物質管理者の選任義務が始まります。

化学物質管理者、眼鏡や手袋など保護具を必要とする場合には保護具着用管理責任者を選任しなければなりません。前者は「化学物質管理に係る業務を適切に実施できる能力を有するもの」とされ、取り扱い事業者などは特別な資格は不要ですが、製造業者は実習など専門講習の修了者である必要があります。後者は要資格です。

★化学物質管理者は SDS対象物質のリスクアセスメントをしなければなりません。つまり取り扱い時に注意すべきこと、管理、作業する人たちへの教育、記録などを実施しなければなりません。

記録はExcel使用CREATE-SIMPLE が使用しやすいそうです。産業医は直接かかわることはないです。

②癌などの遅発性疾患を把握する

1年以内に複数の労働者が同種の癌に罹患したことを把握したとき、企業は業務に起因する可能性について医師（産業医など）の意見を聞かなければなりません。相談を受けた医師がその可能性があること

判断した場合、企業は、遅滞なく所轄都道府県労働局長への報告義務があります。

③がんが発生しうる物質を製造、取り扱う業務に従事する労働者の作業記録など30年間保存する義務がある

厚生労働大臣が定める「がん原性物質」が対象となります。

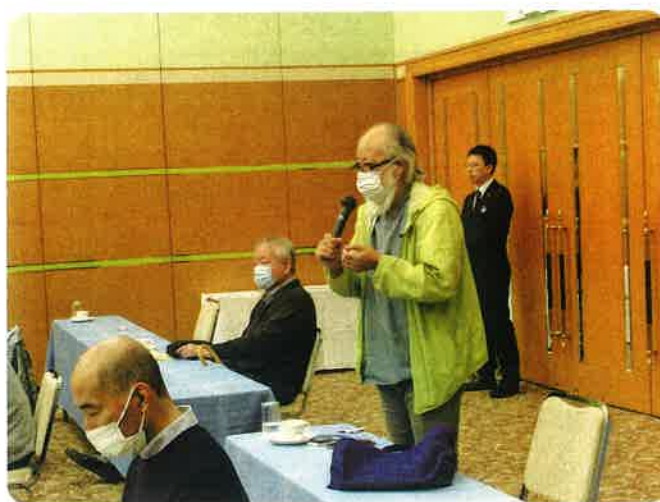
④産業医はリスクアセスメントに基づく健康診断に係る必要があります。

⑤産業医の職場巡視での確認事項（必須）

- 1. SDSの確認、
- 2. リスクアセスメントの実施など化学物質管理者が役割を果たしているか、
- 3. 保護具の使用と保護具着用管理責任者が選任されているか、
- 4. 記録が保存されているか、
- 5. 労働者教育がされているか

産業医としては企業に情報を提供し一緒に対応していけばいいと思います。

また当日ご講演して頂いた越川先生はとても優しい方でセンターへ連絡していただければ疑問に応じてくださいそうです。



第16回白山ののいち医師会会員新年会

令和6年1月13日(土) ホテル日航金沢

第16回白山ののいち医師会会員新年会は、1月13日土曜日18時より、小雪の降りしきる金沢の雪景色の街並みを眼下に、いつもの会場、地上130mの、ホテル日航金沢30階プライベートルーム「ラ・プラージュ」にて開催されました。今回、COVID-19による3年間の中断を経て、4年ぶりに会が催されたことは誠に慶ばしいことではありますが、直前に見舞われた能登半島大震災を鑑み、華やいだ雰囲気は自粛し開催されました。冒頭、松葉会長より震災で犠牲になられた方々に哀悼の意が表され、全員で黙祷が捧げられました。会長からは更に、このような時にこそ会員が集い被災された方々に思いを致すことの意義、また今般の診療報酬改定における成果についてお話がありました。続いて真田陽副会長による乾杯のご発声があり開会いたしました。

今回は催し物として、雅楽の管弦が催されました。「萌雅会」の皆様10人による演奏で、演目：平調音取（ひょうちょうのねとり）、越殿楽（えてんらく）、抜頭音取（ばとうのねとり）、抜頭（ばとう）を、鞆鼓（かっこ）太鼓（たいこ）鉦鼓（しょうこ）の

3鼓、および、笙（しょう）箏（ひちりき）龍笛（りゅうてき）の3管の演奏によりお楽しみ頂きました。リーダーの方の軽妙な説明に続き、迫力のある演奏を間近で体験できた、貴重な機会となりました。出席者からも多くの新鮮な感動のお言葉を頂きました。

2時間にわたる会の終わりに、古澤副会長より、二次避難されている被災者の方に果たす今後の医師会の役割についてお話があり、閉会となりました。

今回は、3年間の中断や、今回からご夫妻までの参加とさせて頂いた事、また震災のため取り止められた方もあり、31名での開催となりました。今回新規会員として新たにご参加頂いた、川上先生、中本先生、酒井先生、中村文保先生、中村佳世先生、またいつもご参加頂いています、有川先生ご夫妻、高田先生ご夫妻、龍村先生ご夫妻、安原先生、更にご参加頂いた理事の先生方、奥様、誠にありがとう御座いました。会員相互の交流・親睦をはかり、医師会活動の更なる円滑な発展に資するため、更に充実した会にしていきたいと思います。



令和5年度 2市保健衛生・学校保健懇談会

令和6年2月8日(木) グランドホテル白山

恒例の標記懇談会が、令和6年2月8日、グランドホテル白山に於いて、白山市田村敏和市長、野々市市栗貴章市長のご臨席の下、両市の教育長、白山市健康福祉部長、野々市市健康福祉部次長の方々のご出席を頂き開催されました。当医師会からは、11名が参加しました。

両市長の挨拶の後、まず、両市の健康福祉部より、①任意ワクチン接種の公的補助について②各種がん検診の実績報告③特定検診、特定保健指導の現状報告の後、当医師会からの協議題として、①带状疱疹ワクチンの公的補助について②HPVワクチン接種拡大への市の取組みについて③頭痛を訴える児童、生徒の対応について其々質疑応答がありました。帯

状疱疹ワクチンについては、白山市では令和6年度より、補助を検討しているとのことでした。接種率が伸び悩んでいるHPVワクチンについては、市民へのチラシ配布や学校、PTAなどへの更なる啓蒙が必要と思われました。最後に頭痛に対する学校での対応について報告があり、稀なケースとして、脳出血例も紹介されました。山本理事からは、頭痛の中には少なからず偏頭痛が潜在していることもあり、ただの頭痛と判断せず、専門医への受診につなげて頂きたいとのコメントがありました。

今回は、能登半島地震の対応等のため、懇親会は中止となりました。

(松葉 明)



かかりつけ医等認知症対応力向上研修第1・2回事例検討会

◇第1回事例検討会

日 時：令和5年12月14日（木）19：00～21：00

場 所：野々市市役所 2階 ホール椿

発 表：地域での医療職と介護の職の認知症対応の違いについて（講師：ときわ病院 内藤 暢茂 先生）

発表後：グループワーク、グループ発表、内藤暢茂先生のミニレクチャーと講評



◇第2回事例検討会

日 時：令和6年2月13日（火）19：00～21：00

場 所：白山市福祉ふれあいセンター

発 表：地域の具体的な認知症高齢者の事例を用いて（講師：長尾医院 院長 長尾 信 先生）

発表後：グループワーク、グループ発表、講師 長尾 信先生からミニレクチャーと講評





小児科医師として50年 夫婦として50年

むとう小児科医院 武藤 一彦

卒業と同時に結婚した。その為にこんな表題が浮かんだ。両者が特別同じような影響を与える経験とは言えないが、簡単に言えば「仕事と家庭」であるから、人としては誰でも経験する事である。50年…長いようで「アッ」という間の50年という感覚もある。あるいは、「いつの間にか」50年という感覚も拭えない。両者を自分なりに頑張ってきたと思うが、同じ配分と自信を持って言える立場でも無い。

まずは、「小児科医師としての50年」を考えてみたい。なぜ小児科を選んだのかという質問は、何度か受けたことがある。どんな答えをしたか？思い出すのはこんな言葉である。「自分が子どもっぽい性格だから」「子どもが好きだから」と、本当かどうか分からないこんな言葉でその場を切り抜けた。今ならもっと高尚で簡潔な言葉が浮かんでくる。例えば、「子どもは未来である」つまり「子どもは人類の未来を担っていく存在である」という事である。昭和・平成・令和と時代は進んで来たが、子ども達の生活は良い方向へ向かっているだろうか。早期保育、病児保育、ベビーシッターと、子どもは預けられる機会が多い。まずは親との絆から人との絆が育

つのである。親が子育てを楽しむ時間と経済的余裕を確保したい。余裕を持った子育てが、愛情深い普通の人間を育てるのである。小児科医としての願いは、子ども達が「生まれて良かった」「生きていることが楽しい」という言葉が聞ける世の中になる事である。自殺する高校生の増加は、その思いに至らない子どもが多い事の証明であろう。

さて、「夫婦として50年」について考えてみたい。ついに金婚式を迎えた。いわゆる恋愛結婚であるが、長男と一人娘という立場から、反対されたことは確かである。お墓を守るためである。反対に対して更に気持ちが強固になった。結局、両家が諦めた。男子3人の親になった。私が子育てに参加していたかどうかを考えてみると、夫婦の意見が食い違うことは確かである。そして、家内の意見が正しいことも確かである。私の後悔は、自分の一番身近に居る子どもの発達を真剣に見なかった事である。死ぬかも知れない子ども達が優先されることは確かであるが、それを理由に手を抜いてはいけないと未だに反省している。



病院紹介

公立松任石川中央病院・腎高血圧内科

公立松任石川中央病院 腎高血圧内科 越智 雅彦

公立松任石川中央病院の腎高血圧内科に赴任して2年目の越智雅彦と申します。

2022年度より高澤和也院長就任に伴い、高澤和也先生を中心に、2022年度は腎臓内科計3名で、2023年度は計4名（院長、越智雅彦、松田優治、嶋口優太）での診療体制となっています。

腎高血圧内科では腎臓病、高血圧症に加え、膠原病リウマチ領域の治療も含めて診療を行っております。

腎臓分野については、検尿異常や原因不明の腎機能障害などを積極的に腎生検し、年間で約30症例です。そのほとんどが紹介患者ですので、日々の紹介を心から感謝いたします。慢性腎臓病（CKD）で紹介いただいた患者は、患者状況に応じて、腎臓病教育を1週間の入院で行っております。入院中に腎臓病の教育に加え、低蛋白食を含む栄養指導、薬剤指導、リハビリ指導、腎看護外来による腎代替療法提示などを行っております。昨今、高齢化社会となっており、高齢者の透析導入症例も増えております。透析にならないようもしくは遅らせるために、これからも腎保護に力をいれていきます。また、末期腎不全でも全例が透析をするわけではなく、保存的腎臓療法（CKM）という治療も広まっています。CKMを選択された場合は、在宅での療養が中心となるため、先生方とのご協力が必要です。今後ともCKD診療の連携をよろしくお願いいたします。

透析については当院では血液透析を月水金は午前・午後クール、火木土は午前クールで施行しております。血液透析導入は年間13例であり、フットケアチームや腎臓リハビリテーションにも力をいれております。また、他院透析患者の手術や心臓カテテル検査・治療目的での入院などにも対応しております。本年度は15年ぶりに腹膜透析を1例導入しました。病棟、透析室ならびに外来と連携しながら日々対応しております。透析液の進歩や自動腹膜透析

（APD）などの機器の進歩があり、高齢者でも適応になる範囲が増えております。今後も腹膜透析症例を増やすことを目標としており、心機能低下などで血液透析が難しい症例や腹膜透析を希望される症例がありましたらご紹介いただけますと幸いです。なお、在宅治療として家庭透析は1例で7年間継続中です。

その他、膠原病リウマチ分野についても対応しております。特に関節リウマチに関しては生物学的製剤に加え、JAK阻害薬など治療の選択肢が増えております。当院でも様々な治療に対応できるように今後も尽力していきます。不明熱などでもご紹介いただくことも多く、紹介をきっかけに膠原病と診断するケースやANCA関連血管炎が判明するケースもあります。

最後に金沢大学附属病院の改変に基づき2024年4月からは当院の腎高血圧内科は腎リウマチ内科として再スタートする予定です。

今後も腎臓・高血圧領域、膠原病領域の白山ののいち地区の地域医療に貢献していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



■開業便り

耳鼻咽喉科つかたにクリニック

塚谷 才明

皆様、こんにちは。昨年8月に野々市市蓮花寺町で耳鼻咽喉科クリニックを開業した塚谷才明と申します。

まずは能登半島地震により被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。またその後、医療介護福祉の面から被災者の治療、サポート、ケアに今もあたっている関係者の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。

私は1990年金沢大学を卒業、耳鼻咽喉科学教室に入局しました。学位取得、関連病院勤務を経て1998年から2007年までは大学病院スタッフとして、2007年から2023年までは公立松任石川中央病院に勤務させていただきました。勤務医時代は一般的な耳鼻科疾患に加えて甲状腺と鼻疾患の外科治療、そして嚥下障害をサブスペシャリティと決め勉強してきました。辞する時に振り返りましたところ執刀・指導した手術は4,500例程に達していました。多くの方に

支えられ、愛着のあった松任石川中央病院でしたが私の我儘で辞職させていただき、この地で新しく挑戦することとしました。

開業して半年が経ちました。今でも朝はすこし緊張し、一日頑張るぞ、と自分に気合いを入れて通勤しています。新米開業医ですので患者さんが求める医療がよくわからず迷い考えながら診察、その後、経営の雑事を終えるとぐったり疲れて帰宅、10時前には寝入ってしまう毎日です。ただ時々患者さんが目を輝かせて「先生、よくなりました」と報告してくれると嬉しく力になります。

今後は勤務医時代からのモットー、「当たり前の医療をきちんと提供して全力で治療する」という想いを変わらずに持ち続けながら、やっていきたいと思います。白山ののいち医師会の皆様、今後ともよろしく願い申し上げます。



■開業便り

野々市なずな診療所

中本 理和

2023年5月22日に野々市市藤平田の旧「やまぎしレディースクリニック」跡に、「野々市なずな診療所」を開院いたしました。精神科と内科を標榜しております。開院に際しましては多くの方々に多大なるご支援ご協力を頂き深く感謝申し上げます。

私は平成元年に金沢大学医学部を卒業後、東京医科歯科大学第一内科に入局し、研修を終えて、大学時代の同級生であった現在の夫と結婚するために金沢に戻り、松原病院（精神科病院）に内科医として勤務しておりましたが、家事・育児をこなしながら仕事をするうちに精神科への転向を決め、平成16年に精神保健指定医の資格を取り、ときわ病院勤務を経て現在に至ります。

長年、認知症病棟で高齢者の心の疾患と身体疾患の両方の治療に当たってきた経験から、患者様をまるごと全身で診なければ心の病も身体の病も快方に向かわないとの考えに至り、当院では精神科と内科の両方を標榜することにいたしました。さらに、東洋医学では古くから心身一致の考えで病を治してきたことを再認識し、ヨガ教室や気功療法も併設する

ようにいたしました。

また精神医療についてはどこまで科学で解けるか、どこからが神の領域か突き止めたいと思いつつと模索してまいりましたが、最近では科学＝神であるとの年にしてやっと気づくようになり、まだまだ私は修業が足りないと研鑽に励む毎日です。

当院では認知症高齢者、青壮年期うつ、更年期障害、産後うつ、引きこもり、学齢期の不登校問題など、全世代を通してのメンタルケアを行ってまいりたいと考えております。それは近年すっかり変容してしまっただ日本人のメンタリティを検討していく上で、親—子—孫と世代を経るにつれて何が起こったかを考えていく必要があり、その流れを分断して個々に診療しては解決は難しいと思うからです。

世界的な大きな社会変革の真ただ中にある今、精神科医療もまた不信感を払拭し真の医療に立ち返る時が来たと感じており、この小さな診療所で微力ながらも小さな一端を担うべく日々努めてまいり所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



石川中央地域産業保健センター事業の紹介

本事業は、「独立行政法人 労働安全機構」が実施主体となり、石川産業保健総合支援センターの「地域窓口」として、主に労働者50人未満の事業所を当センターが支援するものです。

(地域産保センター他に県内4か所あります。)

1 事業内容

- ① 健康診断後の対応等（特定健康相談）
 - ・健康診断結果に基づく医師の意見聴取への対応
 - ・脳・心臓疾患のリスクが高い労働者への保健指導（保健指導）
 - ・メンタルヘルス不調の労働者に対する相談・支援（メンタル相談）
- ② 長時間労働者に対する面接指導（面接指導）
- ③ ストレスチェックによる高ストレス者に対する面接指導
- ④ 治療と仕事の両立に関する相談・支援
- ⑤ 地域産業保健事業運営協議会の設置及び運営

2 事業の業務従事者

- ① 特定健康相談及び面接指導（産業医・医師）
- ② 保健指導（産業医・保健師）

③ メンタル相談（産業医・医師）

④ 面接指導（産業医・医師）

3 実施場所等 運営

特定健康相談及び面接指導（医療機関）（産業医等が事業場を訪問）

4 石川中央地域産業保健センターの概要

- ・事業開始 平成10年事業開始（石川県医師会が主体、平成22年より独立行政法人に移行）
- ・当センターコーディネーターの職員数（1人でスタート、後に3人、現在8人で運営）

5 石川中央地域産業保健センターの実施状況（令和5年）

意見聴取（事業所数）

682事業所 総人数 11,658人

個別保健指導（11人）

メンタル相談 長時間面接指導（11人）

高ストレス面接指導（6人）

保健師による保健指導（252人）



南ヶ丘病院 新任自己紹介



石田 哲也

令和5年4月に南ヶ丘病院に赴任致しました。

岐阜大学を卒業後、金沢大学の旧第二外科に入局し、前任地は加賀市医療センターです。

地域に溶け込んで様々な人の顔の見える医療を目指します。

神社仏閣や季節感のある風景を楽しみながら過ごせたらと考えながら研鑽致しますのでどうぞ宜しくお願い致します。



染矢 滋

昨年7月より、南ヶ丘病院に、回復期リハビリテーション病棟専従医として勤務しています。昭和55年金沢大学卒業後、昭和56年より同大学脳

神経外科学教室に入局しました。石川県立中央病院、厚生連高岡病院、小松市民病院、芳珠記念病院、氷見市民病院にて、脳神経外科医として、平成17年からは、石川県済生会金沢病院、浅ノ川総合病院にてリハビリテーション医として勤務していました。病気を診るのではなく、人を診る医師を目指しています。今後ともよろしくお願いたします。



豊田 誠

私は2023年7月に南ヶ丘病院に着任しました整形外科の豊田誠です。生まれは大阪ですが、金沢大学合格を機にこちらに永住させてもらっています。

金沢大学医学部医学科卒業後は整形外科医として数多くの病院で骨折治療を手がけてきました。しかし、骨折治療にも増して骨折予防が大事と悟り骨粗鬆症認定医を取得しました。今後は南ヶ丘病院で骨折治療と骨折予防を通して地域医療に貢献したいと存じますので宜しくお願いします。

第35回医師会親睦ゴルフコンペに参加して

南ヶ丘病院 川上 重彦

令和5年11月23日、白山カントリークラブで行われた第35回白山ののいち医師会親睦ゴルフコンペに参加いたしました。本コンペは4年ぶりに開催するというので、私が入会させていただいた令和2年以降では初めての開催でした。私にとって、白山カントリーは相性があまり良くないのですが、入会後の初コンペということで、先生方との親睦が図れればということで参加させていただきました。

結果は予想通りで、今シーズンのワーストタイのスコアで終わりました。しかし、初参加ということでハンディキャップがダブルペリアで算定された結

果、大変多くのハンディを付けて頂き、図らずも優勝という栄誉にあずかりました。同伴していただいた古澤先生、高田先生、吉光先生には見苦しいゴルフをお見せして申し訳ございませんでした。

優勝者には会報への寄稿と次回コンペの幹事が義務付けされているため、このように原稿を書いております。さて、次回の親睦ゴルフコンペは本年6月2日（日）白山カントリークラブで予定いたしました。4月に入って正式なご案内をさせていただきます。先生方のご参加をお待ちいたしております。



令和5年度 学術講演会開催一覧

(学術担当理事 寺島 成明)

日時	場所	演題	講演者
5/22 (月)	グランドホテル白山 WEB	心不全を見据えた高血圧症治療	金沢市立病院 循環器内科 主任部長 村井 久純 先生
6/7 (水)	松任文化会館ピーノ WEB	石川県の未来を変えよう！ ～9価HPVワクチン定期接種化を迎えて～	いこまともみレディースクリニック 院長 生駒 友美 先生
8/29 (火)	松任文化会館ピーノ WEB	CKD病診連携におけるかかりつけ医と専門医 の役割 どこまでこっちで診ればいいのか？～ベストな専門 医紹介タイミングを再考する化～	医療法人八田内科医院長・ 近江八幡総合医療センター顧問 八田 告 先生
9/25 (月)	グランドホテル白山 WEB	かかりつけ医が見つかる膝疾患のポイント	金沢赤十字病院 消化器内科 副部長 須田 烈史 先生
11/7 (火)	WEB講習会	整形外科医が診る神経障害性疼痛	下崎整形外科医院 院長 下崎 真吾 先生
		糖尿病専門医が診る 神経障害性疼痛	石倉内科医院 院長 石倉 和秀 先生
		脳神経外科医が診る 神経障害性疼痛	金沢脳神経外科病院脳神経外科 部長 旭 雄士 先生
11/8 (水)		開業医における COVID-19経口治療薬の活用法	長尾医院 理事長 長尾 信 先生
11/28 (火)	WEB講習会	進行がんに対する薬物治療と支持療法の最近の 動向	石川県立中央病院 呼吸器内科 診療部長 西 耕一 先生
12/13 (水)	WEB講習会	心不全地域連携パスの運用の実際 ～当院の取り組みを踏まえて～	公立松任石川中央病院 循環器内科 診療部長 主任部長 大谷 啓輔 先生
		循環器診療における高カリウム血症とロケルマ の有用性 ～多職種支援地域、それぞれの立場での心不全 へのアプローチ～	徳島大学病院 循環器内科 助教 伊勢 孝之 先生
1/23 (火)	WEB講習会	新薬ラッシュの潰瘍性大腸炎治療の概要	金沢医療センター 臨床研究部長 消化器内科部長 加賀谷 尚史 先生



穴水湾曾福から望む朝日（橋本憲三氏 撮影 春分の日）

編集後記

令和6年元日は、能登半島地震が発生し甚大な被災となりました。

お亡くなりになられた方におかれましては、心より哀悼の意を表します。

また、多くの方が避難所生活を余儀なくされました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、そのような中で、会報第17号を発刊出来ました。平素の業務に震災関連の業務が重なったご多忙の中、会員の皆様方や事務方のご協力の賜物と偏に思う次第です。

ご協力には心より感謝いたします。

昨年5月よりCOVID-19が法的にインフルエンザと同じレベルの5類感染症に変更されました。

それを契機に、これまで中止になっていた多くの行事等が再開しました。

これにより、本来の会報内容によりやく近いものになったのではと思います。

本会報を通じて、当医師会活動にご理解と関心を寄せて頂けますと幸甚に存じます。

末筆ながら、能登半島地震の被災が一日も早く復興されることを祈念いたします。

ありがとうございました。

会報編集委員長 橋本 憲三

発刊責任者	松葉 明
編集委員長	橋本憲三
編集委員	柿木嘉平太・寺島成明・橋本憲三 古澤明彦・堀川 勲・松葉 明 武藤一彦・吉光康平
事務局	中山良久・武田智子

発刊所 前田印刷株式会社